



@幸せな贈り物

避難所シタデル^{Citadel}と 神様のアーク^{Ark}



2014年4月16日チンド、サウォル号事件 忘れることもできませんが、決して忘れてもいけません。世の中での失敗は許されてまた回復する機会がありますが、いのちの失敗は許されてまた回復する機会はないからです。天下にいのちより尊いものはありません。「人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありましょう。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。」(マタイ 16:26) それで、いのちをいいかげん思うことより、大きい犯罪はありません。もう私たちは次世代に、これ以上恥ずかしくないように、どんな人生の安全地帯を遺産として譲らなければならないのでしょうか。

災害の避難所シタデル サウォル号の事故以後、インターネットには船舶事故のときの非常脱出についての妙案があふれています。サウォル号の船体が90度傾いて、生存者は消防ホースを綱のようにして、絶壁のようになった廊下をはい上がってきたと証言しました。それで、あるネチズンは、船室と廊下天井にはしごを設置して、普段には装飾品のようにつるしておいて、船が傾けば、乗客を非常口に引っ張ってってくれる安全装置になるようにしようというアイデアを提示したり、船が沈没する時まで、船の外側に脱出できなくても、少しの間は、救助隊を安全に待てるように、四方が密閉された「パニックルーム」(安全室)を作って、最後の待避空間で活用しようというアイデアもありました。

アラビア海の近隣を航海する海外船舶は、すでに海賊が襲ってきたとき、戸を閉ざして救助を待つ「シタデル」(Citadel、緊急避難室)を用意しています。

シタデルは、海賊の侵入や船舶内部の非常状況など、船員が危急状況に置かれたときに、逃げ込める空間で、船員緊急避難所と言います。辞書では「要塞」という意味のシタデルは、海賊の攻撃など、緊急状況が発生したときに、身を隠せる一種の待避所です。外部から壊して入ってくるできないように厚い鋼鉄で作られていて、通信装備と普通3日分の飲食品などがそろえられていて、また外部からはドアをあけることができないように、内部開閉装置が設置されています。

ハンジン海運所属のコンテナ船、ハンジンテンジン号7万5,000t級が、2011年4月21日にインド洋で拉致を狙ったソマリア海賊の攻撃を受けたのですが、船員が緊急避難所に逃げて、危機をまぬがれたと発表されたりもしました。

洪水の避難所アーク 聖書の歴史にも見れば、全人類が洪水の災いで死を迎えるようになった時がありました。そのとき、神様が人間にくださった避難所がアーク (Ark) 「ノアの箱舟」です。聖書は、その当時の状況をこのように語っています。

「神の子らが、人の娘たちのところに入り、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、名のある者たちであった。主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。そして主は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」・・・地は、神の前に墮落し、地は、暴虐で満ちていた。神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。そこで、神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。」創世記 6:4~7、11~13

ネフィリム時代、言い換えればサタンという暗やみの存在が完全に人間を掌握して、墮落と腐敗と悪が地に満ちていた時代でした。それゆえ、人間にはサタンがもたらす災いと滅亡がくるしかありませんでした。そのとき、神様は人間に向かって最高の安全地帯を約束してくださいました。

「あなたは自分のために、ゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外とを木のやにで塗りなさい。それを次のようにして造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト。その幅は五十キュビト。その高さは三十キュビト。箱舟に天窓を作り、上部から一キュビト以内にそれを仕上げなさい。また、箱舟の戸口をその側面に設け、一階と二階と三階にそれを作りなさい。わたしは今、いのちの息あるすべての肉なるものを、天の下から滅ぼすために、地上の大水、大洪水を起こそうとしている。地上のすべてのものは死に絶えなければならぬ。しかし、わたしは、あなたと契約を結ぼう。あなたは、あなたの息子たち、あなたの妻、それにあなたの息子たちの妻といっしょに箱舟に入りなさい。またすべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二匹ずつ箱舟に連れて入り、あなたといっしょに生き残るようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならぬ。また、各種類の鳥、各種類の動物、各種類の地をはうものすべてのうち、それぞれ二匹ずつが、生き残るために、あなたのところに来なければならぬ。」創世記 6:14~20

神様はノアに「あなたのために、あなたの家族のために、いのちを保存するために」アーク (箱舟) を作りなさいとおっしゃいました。その箱舟に乗った人は、みんな洪水の災いで生き残りました。

人間の永遠な安全地帯 イエス様は、この時代を見ながらこのようにおっしゃいました。

「人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようなからです。洪水前の日々は、ノアが箱舟に入るその日まで、人々は、飲んだり、食べたり、めとったり、とついでりしていました。そして、洪水が来てすべての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。・・・だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。しかし、このことは知っておきなさい。家の主人は、どろぼうが夜の何時に来ると知っていたら、目を見張っていたでしょうし、また、おめおめと自分の家に押し入れられはしなかったでしょう。だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから。」マタイ 24:37~39、42~44

神様が人間のために準備してくださった永遠な安全地帯、それが福音です。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」マタイ 11:28~30

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。聖書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主であり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。」ローマ 10:9~13

イエス・キリストを通した救いは、人生の不幸の根本原因である「サタンの問題、罪とのろいの問題、地獄の背景の問題」からの永遠な解放です。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。」ローマ 8:1~2

礼拝の中に含まれた祝福

アメリカの南北戦争当時、戦闘の真っ最中で激しく戦っていたとき、エイブラハム・リンカーンは、その渦中にも、聖日になれば一度も欠かすことなく、教会に行って神様に礼拝をささげたりしました。ところで、ある聖日に礼拝を終えた後、司会者が思いがけないお知らせをしました。「みなさん、これからしばらく、教会でささげる礼拝を打ち切ることにしました。おわりの通り、今、戦争が非常に激しいです。死傷者がたくさんでいるので、教会建物を改造して、しばらく、病院にして、国のために奉仕することにしました。それで、戦争が終る時まで各自、家で個人的に礼拝しながら信仰生活をしてください」

このことばを聞いたリンカーンは、びっくりしながら、すっと立ち上がって話しました。「だめです。それはまちがった考えです。もちろん、戦争が激しいことは事実です。死傷者がたくさんでいるのも事実です。それでも、教会を変えて病院で使用してよいのですか。私たちは国が難しいほど、より一層切実に礼拝をささげなければなりません。全面的に神様を頼らなければなりません」これがリンカーンの信仰でした。それで、教会を改造して病院として使うという計画は取り消しになりました。礼拝が続き、結局、リンカーンが勝利しました。何よりも礼拝を重要視したリンカーン、神様は彼をアメリカの人々に最も尊敬される大統領とされました。

多くの方が礼拝は神様だけを大切にすることだと言いますが、実は、礼拝は神様が被造物である人間を祝福されるために作ってくださった制度です。それで、礼拝の中には神様が備えておかれた祝福が含まれています。これを一日中味わう日が聖日（主日）です。その祝福と力を持って6日間、世の中で努力して行くということです。

聖日礼拝をささげながら、賛美を歌うとき、その賛美の背景の中にある答えを受けようになります。祈るとき、必ず神様の働きと答えが現れるようになります。献金するとき、世の中を維持して世の中を生かす隠された経済の祝福の門が開かれるようになります。礼拝をささげるとき「あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも幸いを得、また健康であるようにという祝福」Ⅲヨハネ1:2を回復するようになります。

神様が備えられた聖日礼拝の祝福と、世の中で備えられた祝福がつながるとき、クリスチャンの生活は神様が喜ばれる生活になります。多くのクリスチャンの礼拝の姿と、世の中の生活が別々になった姿が世の中の人々を失望させています。礼拝のときに受けたみことばが、世の中で私たちの生活の中で一致するとき、神様の驚くべき働きは始まります。

人々は自分が価値あると感じる存在や対象を礼拝して、礼拝する対象を愛して似ていくのですが、神様は神のかたちとして創造された人間にだけ、神様に礼拝をささげられる祝福をくださいました。そして、その神様は人間の将来に平安と希望を与えることを望まれます。それが、神様に礼拝をささげる者に約束された永遠な祝福です。

「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」エレミヤ 29:11



神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きてきました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。救ったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



黄色いリボン 思うこと

なぜ、私たちは文化の主導者ではなくて、文化の批判者だけになるのだろうか。なぜ、私たちは人を生かす伝道者であるにもかかわらず、苦しんでいる生活をいやす解決者の価値を見つけることができずにいるのだろうか。水に落ちた人には救命艇が当然必要だ。

最近、黄色いリボンをつけるキャンペーンが大学サークル ALT で「サウォル号沈没事故」行方不明者の無事帰還を祈りながら始まった。ALT は「黄色いリボンの意味は『再び戻ってくることを待ちながら祈ります』という意味で、行方不明者の無事帰還を願って、家族の悲しみを全国民がともにわかちあおうという意味で参加して下さったら良いです」とキャンペーンの趣旨を説明した。また、自分たちが製作した黄色いリボンのイメージを無料配布しながら参加をうながしていた。それ以後、芸能・スポーツ界のスターをはじめとして、ネチズンが「黄色いリボンをつけるキャンペーン」に参加して、SNS を黄色く染めている。ビッグバン、チドゥレゴン、少女時代のスヨン、2AM のソグオン、シークレットのチョン・ヒョソン、俳優キム・スヒョン、チャン・グンソク、パク・シンヘ、フィギュア女王キム・ヨナ、スピードスケート女帝イ・ソンファ、体操女帝ソン・ヨンジェなどが、今回のキャンペーンに共感しながら力を出し合っていた。

しかし、一部では意地悪なはずらや、悪性のデマをまき散らして「黄色いリボンをつけるキャンペーン」に冷水を浴びせている。今回は、黄色いリボンに対して「シャーマニズムでは、冥土へ行くたましいを意味する。悪霊を呼ぶ呪術だ」というデマが登場した。「黄色いリボンの錯覚」というタイトルで出処が不明なこの文は「謹弔（人の死に対して悲しい心を表現すること）を現わす黄色いリボンは事実、蝶々だ。シャーマニズムでは、黄色い蝶々は冥土へ行くたましいを意味する」という内容がある。

黄色いリボンは便りが途絶えた人が無事に帰ることを希望する心を表現するアメリカの風習に由来している。戦場に行った兵士や人質の無事帰還を願ったり、監獄に入った夫が戻るように願う心を抱いて木に数えきれないほどの多くの黄色いリボンをくくったという実話も伝えられる。これをもとにして作られた歌が 1972 年アーウィン・レヴィン (Irwin Levine) と L・ラッセル・ブラウン (L. Russell Brown) の「幸せの黄色いリボン」(Tie A Yellow Ribbon Round The Ole Oak Tree) という曲だ。また 1977 年に日本で映画化された「幸福の黄色いハンカチ」も黄色いリボンからのものだ。これまで韓国でも大小の黄色いリボンキャンペーンが展開されてきた。2003 年「イラク

戦参戦韓国人の無事帰還祈願」、2005 年「北へ拉致された人送還祈願」、2007 年「出所者に対する赦しと包容」、2008 年「児童虐待予防および根絶」、2010 年「欠食児童助けること」等の趣旨が含まれるリボンキャンペーンが展開したことがある。黄色いリボンの意味は目新しいことではない。何か苦しみを受ける人々には、なにかの慰めの言葉と行動が従わなければならない。大衆が呼応できる文化的価値を作ったこそ、キリスト文化が大衆文化を先導して、暗やみ文化をいのちの文化に変えられるのだ。

黄色い蝶々でもリボンでも、ひとまず文化がそうならば、ついて行かなければならない。カイザルのものであるためだ。それとともに、神様のことを準備して付いて行くようにしなければならない。時代の文化に従いながら、福音の良いことに変えなければならないのだ。文化は価値がなければならない。低級な価値や幼稚な哲学、盲信を持った普遍的な価値では、付いてくるようにさせにくい。私たちの現実が自分の位置を守ること難しい恥の中にあるので、団体の力を頼らなければならない。それで総会があるのだ。本当の慰めの価値を持った内容を提示して、共感できるだけの資料を出さなければならない。そのような意味で見ると、大人たちができないことを大学生がするというには価値ある。黄色いリボンを付けてもよいだろう。

五行説で現わす五色の色にもいろいろある。どの色でも暗やみのイメージがある。知っているように、私たちはすでに暗やみの文化に数字、図形、色、意味をみな奪われた。ただ一つ残っているのは、神様のみことばだけだ。それなら、黄色いリボンに慰めの神様のみことばを書こう。こういうことを速くしなければならないのだ。公然と十字架をつけずに、慰めと希望のメッセージで私たちの信仰も表現して慰めも伝達しなければならない。私たちが福音文化の先導者にならなければならない。

大人たちが「ごめんなさい」ということばしか言うことができないこの時代に、意味を生かして、どのようにして私たちの民族をいやして回復させるのかを深く祈って行動しなければならない時であると思われる。

チョン・ヒョングク (福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ